

母娘

IN
TR
フ
ツ
ク

1

有機リンゴ







つてことは
あれが蜂谷さん
…と娘…？

ああ…
鮭川くん…

いたわね
そういや…

おいおいく
酷い言い方
だなあ

同じクラス
だったろ？

娘ができて
学校辞めた時は
大変だったけど

まあなんとか
頑張って
やってきてさ

今はスゲー
幸せだよ…

じゃあ俺たち
これから映画
だから

機会あったら
飲もうぜ

やーっ

あ…

ああ…

だれ？
あのきもい人？

こら
愛美っ

お前のところは
どうなの？

いや…
まだ…
独身で

マジで？
早く家族
作りなよ

家族は
いいもんだぞ



こんなご時世で
旦那が職をなくした
みたいでして…

家族のために内緒で
働きに来ている
みたいですよ

いい話でしょ？

へえ…

じゃあこの娘に
しようかなあ



ご…ご指名
ありがとうございます
ございます

やっぱり
蜂谷さんだ

再会した
俺のことも
忘れてるな…



あのヤロウ
高校時代に
俺になにしたか
覚えてねえのか？

家族を作れだど？
ふさげやがって…



ごゆっくり
どうぞー





まさか蜂谷さんに
チ○コしゃぶって
もらえるなんて…

ああ…
夢みたいだ…

聞いたよ…熊野くん
仕事失って
大変なんだって？

家のために
蜂谷さんが
風俗で働く
なんて…

熊野君は
このこと
知ってる？

いや…
知らないでしょ

彼はプライドだけは
高かったからねえ

お願い…
主人には
黙ってて…

な…なにこれ

すごく…
大きい

んっ

んっ

んっ

んっ





ああっ
じれったいい!!

全部
入れるぞお!!



...ん?

え?
いったん
ですか?

娘一人産んだ
人妻がチ○コ
奥に挿れただけで
いったんですか?

もしかして...
蜂谷さん
あまりやり
慣れてない...?





お風呂の準備
します…

あ…
そ…
それでは

ハア…

ハア…



いや
そんなの
いいですよ
時間が限られて
るんでね…

え!?!
ちよ…
ちよっと
ウソでしょ?

きゃあ



ハメ倒して
あげますよ

ぬち
ま…ま…ま…

ぬち
ぬち

お願いっ
少し休ませて…

あ
あ





あらあ…

さすがに少し
やりすぎた
かなあ…？

でも…
まだ少し
時間あるから

おっぱい使わせて
もらいますねえ…

ふあ

あ



あああ〜
凄いやわらかい

ギンギン

ギンギン

はあ…
もっと昔に
これしたかったあ…



ああ…
蜂谷さんの
おっぱい…

ギンギン

最高だよ
おっぱい…

ギンギン

ぐふっ

ぐふふ



じゃあ
時間来たから
いきますね…

あ…
見送りはいいから
ゆっくり休んで
ください

どうせもう
立ち上がることも
できないでしょ？

はあ

はあ

はあ

とろ…
とろ…



では
見送りの
キスを…

グフフ…

また来ますよ
蜂谷さん…

むちゃっ

ちゅん

ちゅん

ちゅん







それよりさ…

この娘に指名
変更したいん
だけどいい？

!?



あ…あの時の…

お父さんの
友達の人
ですよ？

常連さん
なんですか？

まあね…
地元から少し
離れてるから
知り合いと
会わないし…

だから
愛美ちゃんもここ
選んだんでしょ？

わ…私は…
その…

けどやっぱり
JKが水商売は
まずいよね…

っ…!!

なんで
キャバクラを
しようと思
ったの？

い…いま
お父さん…
お仕事
無くなって

お母さんが
お昼にパートで
頑張るらしい
んだけど…

ソープ
だけだな…

わ…私もなにか
手伝えないかと思っ
て内緒で…

なるほどお
偉いん
だけどねえ

店側はJK
雇ってたって
バレたら大問題
だからねえ…

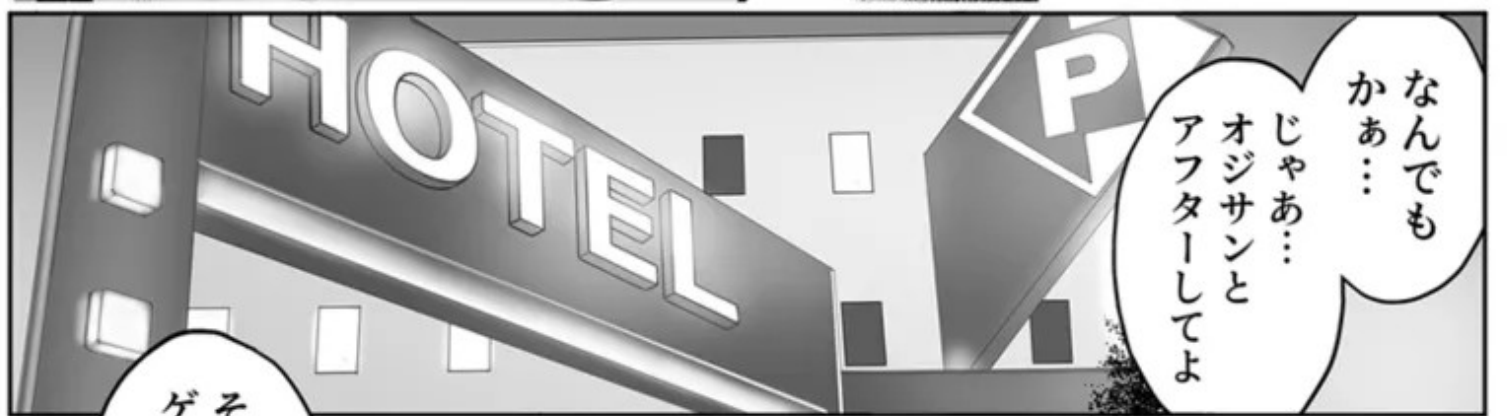
警察に通報されて…
両親…学校にも
連絡が行って…

最悪…
学校は
退学処分…

お…お願いですっ
どうかこのことは
黙っててください!!

クイッ







愛美ちゃんが
イクより早く
ボクがイッたら
この件は黙って
あげるよ…

けどもし
愛美ちゃんが
先に…

まって…
嫌です
そんなの！

私…りょうくん
ともそんなこと
したことないのに

へえ…
カレシ
いるのか

そう…
じゃあこの話は
無しで店長に
報告するだけだね



こんなことで
退学だなんて
お母さん悲しむ
だろうなあ…

愛美…
お母さん達は
中退でとても
苦労したから…

愛美はちゃんと
学校を卒業してね…

ただチ○コを
しゃぶるだけで
いいのに…



やります…

やります
くださいっ

んっ
んっ
ちゅっ
ちゅるっ



グフフツ…

昼に母親が
啜えた子〇〇を
夜にその娘が
啜えるなんて…

すげえ贅沢
じゃねえか…



うう…
気持ち悪い…

早く…早く
イってよお…

残念だが…
昼に母親の膣内に
散々
出してきたんだ

もう感度も下がって
簡単にはイかない
だろうねえ…



それに比べて
こっちは
未使用の
ぶにぶにま〇〇

やる前から
結果はわかって
るんだよなあ

あっ…

あぁあ



ねえ愛美ちゃん
まだイってないの？

シートがもう
びちよびちよの
大洪水だよお…

いってない…

いってない
からああ…



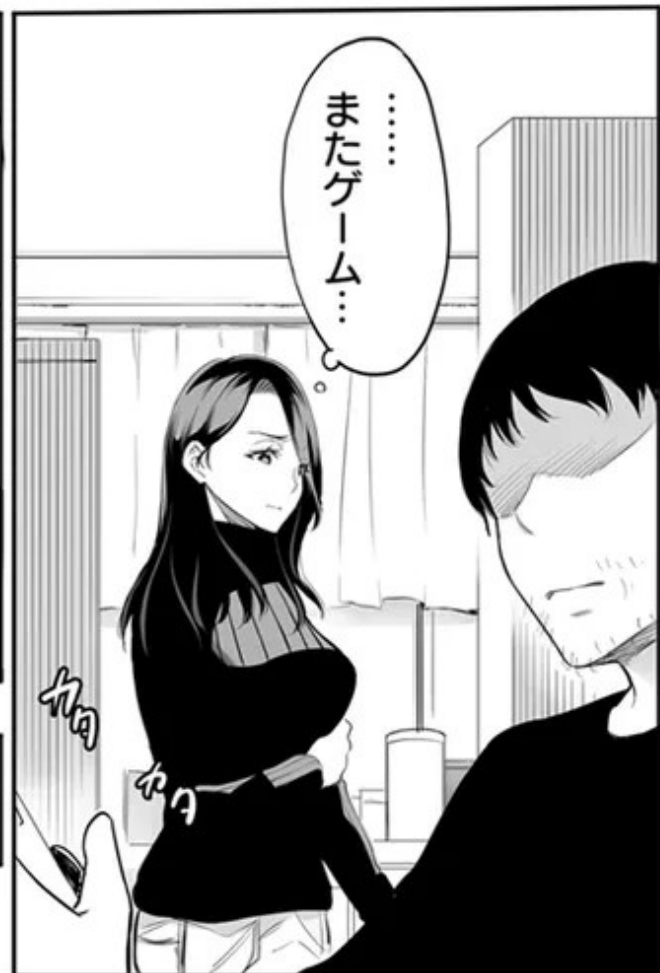
なかなか
頑張る娘だけど
もう限界
だろうなあ…

自分がいま
どういう体勢
なのかも理解して
ないだろう…

せっかくだし…
このままいたたく
とするか…

ぐちゅい













母娘NTRフーズク

(1)

著者 有機リンゴ

発行 FILL-IN

この物語はフィクションです。登場する人物・事件・団体・名称等は架空であり、実在のものとは一切関係ありません。

収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、発売当時のまま掲載しています。

本作品の一部あるいは全部を無断で複製・転載・配信・送信・放送・譲渡またはアップローダーサイトに掲載する事を禁止します。

本作品の使用につきましては、あらかじめ弊社宛に許諾をお求め下さい。